



その 226

クローズアップ21

世界一若い？ゴルフ場社長 セブンハンドレッドクラブ

みんなが幸せを実感できる、世界一何でもできるゴルフ場に

サッカーボールを蹴ってゴルフのようにプレーするフットゴルフ。その第4回ワールドカップが来年10月に日本で開催され、栃木県さくら市のセブンハンドレッドクラブ（18H）で開かれることが9月に発表された。

経営会社の㈱セブンハンドレッド（小林忠広社長）は「セブンハンドレッドは、みんなが幸せを実感できるゴルフ場」をビジョンに掲げ、ゴルフ場を通じて、様々な方が楽しめる環境を作るべく活動をしております。フットゴルフを通じて、ゴルフ場に訪れるキッカケになれば嬉しく思います」とコメントを添えてニュース配信した。同ゴルフ場は法人会員制として1980年5月に開場。小林社長は従来のゴルフ場枠に捉われない新たなチャレンジを始めており、今回は同クラブの取組みについて、小林社長の談話をもとに紹介する。

原体験はラグビーコーチと米留学

小林社長は取材した際に自称・日本一、世界一若いゴルフ場社長と話しているが、著名な起業家に通ずる熱量と自信があり、しかも

年配者にも理解できる言葉で取り組みを説明してくれた。

小中高とラグビーに熱中し、慶應高校では主将として全国大会に出場。大学時代に中学のラグビー部のコーチを務め、アメリカに1年間留学した際には国際環境や国際経済を学んだ。その留学中、今の活動に影響を及ぼす原体験に出会った。ワシントンDCで一流ビジネスマンが平日の仕事後に、仕事とは関係のないボランティア活動で、海外の難問を解決すべく熱く討議する場面に遭遇し、「素晴らしい」と感銘を受けたという。

そして25歳にして、スポーツ教育を変革することで、社会にインパクトを生みたいとNPO法人スポーツコーチング・イニシアチブを設立。アメリカで感銘を受けた「勝利」と「人間的成長（ライフレッスン）」を目指す「ダブル・ゴール・コーチング」（PCA）の日本への普及を目指し代表理事として、今も日本全国でワークショップ（体験的講座）を続けている。同ゴルフ場は祖父が創業し、小林社長で3代目。父親（現在の小林隆行会長）からは大学卒業を前にしてゴルフ場を継ぐ意思を問わ



小林忠広社長

東京都生まれ、27歳。慶應大学法学部卒、慶應大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科修了。NPOスポーツコーチング・イニシアチブ代表理事。NPO二枚目の名刺や起業家支援等の活動をゴルフ場社長就任後も並行して行っている。

れ、「私以外、継ぐ者がいない」と家業を継ぐことを決断。しかも父親が今年70歳となり、事業承継で新オーナーに就任した。

ス 理念、行動宣言を作るプロセス

最初はゴルフ場事業を学ぶため、3年前から学業やNPO活動をするかたわら、週1回ゴルフ場に通い、コース管理部で芝刈りやグリーン整備に1年間従事。一昨年から取締役に就任し、会社として目指すビジョンが必要で大事と感じ、会社の理念、行動宣言を明確にしようと取組みを始める。

一方、社内のコミュニケーションを密にするために2017年からコラボレーションハブのSLACKをいち早く導入。必要のない会議はなくし、スマホで見えにくい場合はプリントアウトするなどして、30数名の社員全員が各部門の仕事を確認する、見える化作業を行っていった。またIT企業などの人材育成で注目され始めた「1on1」と称される1対1のコミュニケーションづくりも始めた。こうした社内研修も進めて、従業員みんなへのヒアリングを通してビジョンとミッションを明確にしていっていったという。

小林社長は「グーグルが提唱した『心理的安全性』がチームや会社組織で高いパフォーマンスを発揮することが世界的に証明されていると力説しており、同社でも従業員間で互いを否定することなく先進のメソッドに基づく社内改革に取り組んだ。そして出来上がった会社理念が冒頭で紹介した「みんなが幸せを実感できるゴルフ場になる」に集約された。

そして「抽象的な言い方ですが、ゴルフのお客様、従業員、地域の皆さん、そして社会が幸せになる

ということをどうやって実現するか。他のゴルフ場じゃできないものと考えた時に、私たちのやることはシンプルに「何でもできるゴルフ場です」とまとまりました。日本一では目指す頂が低いので、世界一を目指して新しいことに取り組むことにしました」と新しい会社の行動宣言の経緯を説明した。

また「当ゴルフ場は売上目標を決めていません。KPIとかの数値目標も、前年対比も必要以上に問わない。お客様にとって価値があつて、意味があることが大事です。私はゴルフ事業が素人なので、絶対解が私にあるわけではない。従業員の方がゴルフ場に詳しいのでみんな考えて最適解を決めたいと思います。」

しかも私は3秒で決断します。殆ど排除しない。ITベンチャーのように決断を早く「爆速」で物事を進めて、ダメだったらそこで学んで次に生かしていく。大事なのはラグビーと同じ「トライ」すること。

ゴール（得点）につながるかどうかはわからないが、まずはやってみて、みんなが応援し、スクラムを組んで

協力し、ダメだったらドンマイで、次に生かしていく。

当クラブは法人会員制ですが、会員数が目標の700社に届かなかった。その思いから私たちは「700トライアル」を始めました」と現在の取組みの由来も説明する。

小林氏は大学院を卒業した後、今年4月に代表取締役社長に就任。「700トライアル」は今年6月に始動した。7月からは一般社団法人・日本フットゴルフ協会のアンバサダー（大使）を務め、世界でも有名なサッカー漫画『キャプテン翼』原作者の高橋陽一氏が初めて監修した18ホールのフットゴルフコースの整備を始め、9月7日にオープン。オープン当日は



フットゴルフのフラッグは高橋陽一氏書下ろしのイラスト。ティマークはゴルフと共存

高橋氏も参加した「高橋陽一カップ」が開かれ、一般・シニア、女子・小学生の3部門で計70名が参加した。来年のワールドカップでは40カ国から関係者、家族も含め千名の参加者が見込まれる。しかも10日間開催で、その間はゴルフ場としての営業は行わないと思いつつた施策だ。

さらに「ワールドカップの会場となることで、フットゴルフの聖地を目指したい。さくら市長も市を聖地にと乗り気です。ゴルフのお客様からもゴルフのプレーの後、追加ハーフでフットゴルフのプレーを希望する方も増えました。地域の人たちにはフットゴルフ等をきっかけにゴルフ場に足を運んでいただきたいと思います。また地元・栃木のサッカー、バスケット、野球のチームとも連携し、地域のスポーツイベントとしても盛り上げていきたい」という。

地元のさくら市は喜連川町と氏家町が合併し2005年に市制施行。公募で小学生の案が採用された。同コースの進入路には桜並木があり、練習場に桜の木を植えて花見をしたり、イベント会場に使うことも検討中という。



フットゴルフを描いた高橋陽一氏のイラストが記念撮影スポットに

また9月10日には「国内初、ゴルフ場が電動キックボード導入」のニュースが配信された。昨年創業したベンチャー企業のLuup（ループ）社が電動マイクロモビリティのシェアリング事業を提供するモデルとして同ゴルフ場に導入したという。

新しい事業を始めるには費用も必要だし、会員の理解も必要だ。「昨年のゴルフ場来場者数は3万3千人ほどです。多いとは言えませんが、あまり安くしてお客様を入れることはしたくない。また先代の社長は先見の明があり、ネット会員（年会費無料）に1万4千人が登録しています。単独のゴルフ場では全国で5指に入る多さで



簡単操作で軽快に移動できる電動キックボード

はないでしょうか。ネット会員になるとウェブ最安でプレーできます。料金変動制を敷いていますが、価格以上の価値を提供したい。正会員は法人様ですが、その会員様にはこれまで以上の価値を提供したいと思います。

私たちが目指すのは例えば京都のように「ああ何かいいよねえ」と思ってもらえることが大事だと思えます。勿論、京都にはその価値があるわけで、私どもも「選ばれる理由をきちんと作りたい」。これは食事でもいいでしょうが、オリジナリティを出していきたい。

何より従業員とのコミュニケーションが大事です。従業員が幸せでなければ、良いものも提供できない。私は世界一若い経営者であ

ると思っていますので、新しく感動的なものを作りたい。令和になったのにまだゴルフ場は昭和だよねと思うところがあるので、これまでの良いところを取り込みつつ少しずつ新しいものを体現していきたい。ただし、どうあるべきかを突き詰めないあまり意味がないと思っています。

そもそもゴルフ場を継ぐ思いを強くしたのは、さくら市の教育委員会の方と話している際、地元の子供たちはグラウンドが十分に整備されておらず、のびのびと遊ぶ場所もないことを知ったことでした。私もラグビーをやっていたので地方の選手は走りこんでいるから地力があるよねと思っていたので、意外さに残念に思いました。そこでゴルフ場を通じて、地域に何か貢献できるのではないかと。ゴルフ場産業がシユリンク（縮小）しているのは、必要な施策を行ってきていないためではないかと考えました。ゴルフ場から地域に何かを提供するのではなく、地域からゴルフ場とのコラボレーション（共創）アイデアをもらうことに転換する必要があると思いました。ジュニア育成にゴルフ場が取り組



練習場を使って、佐藤英之プロがデイリーレッスン中。佐藤プロとは社員契約し、プラスインセンティブで働いてもらっているという

んでも地域に子供がいなければ続かない。持続的ではないと思いません。ゴルフ場は地域の里山を開発して地域とは排他的に利用してきただが、これからゴルフ場を存在価値のあるものにするには地域に貢献し、共に創造しあうことだと思います」

今まで行ってきたゴルフのスクール・アカデミー、それにフットゴルフの他に、さくら市教育委員会主催の「課外スクール」を行ったり、またドローンを練習したい人にコース開放（有料）も始めた。さらにゴルフ場の機能を高めるべく準備中でその設計図面も出来上がっているという。具体的にはバーベキューができるスペース、ま

た地域住民向けの子供向け施設も検討しているとのこと。「火器などを使わなければ3秒でアイディアの受入れを決めます」とし、まずは地域の人たちに「ゴルフ場はいいな」と思ってもらいたいと話している。

地域の人が集まるゴルフ場にライバルは地域のイオン

「ライバルは地域のイオン（ショッピングセンター）だと思っています。週末になれば地域の人たちはイオンなどの複合商業施設に集まりますが、晴れた日にはゴルフ場に来てもらいたい。ゴルフ場がそういう存在になったら素敵だと思います。大切なのはどこを目指して行くのかということ。ただし社長だけが突っ走ってはいけません。ワンマンだと従業員は疲弊していただくだけ。働く人たちがより良くなっていくことが良くなる秘訣ではないかと思っていて、従業員にはパートではなく、ちゃんとフルタイムで働いてもらいたい。従業員が幸せを感じられることが重要。例えば当ゴルフ場は午後5時閉館で公務員より早く「ダッシュ」で帰る文化があります。夏や冬はス

ループレー方式で営業しており、この時期は従業員も5連休を取れるようにしています。副業も内容次第ですが、OKです」

その上、コーチ的存在の外部の専門家を副業人材として募集し、広告、マーケティング、ベンチャー企業立ち上げ経験者などプロフェッショナルな副業人材を8名ほど採用した。

今でもウェブで同募集の内容が閲覧できるが、「700トライアル」を始めたこと、「私たちがつくりたい社会／未来」、「お客様・社員・地域の三位一体の幸せを生み出していく」、「プロセスを大事にしながら社員を巻き込んだ場の盛り上げ、社内ミーティングの場作り、アイデア創発に一緒に挑戦していただける方をお待ちしております」と会社の理念と求人像を表現した。オンラインミーティングや週1などの勤務から始められる。ゴルフ好きも多いただろうし、素晴らしいアイデアだ。

現在、その外部専門家から従業員がウェブ制作などを学んでおり、12月頃からトライアルの内容を開示して、ホームページを充実させる方針。さらに、地域から活性化

させる取組みは1ゴルフ場だけでは意味がないと語り、他のゴルフ場とも情報交換・提携を図りたいという。成功事例が出来たら、他のゴルフ場にも真似してもらい、広めたいとも話している。

来年一大イベントを開催することで、世界一何でもできるゴルフ場が広がることを期待しており、各地からアイデアを募り、チャンネル数も700から7000に増やしたい思い。小林社長は、起業家精神に溢れた熱量がある。「太く短く生きたい。日本にはまだまだ発展できるゴルフ場がある。運営受託などを通してゴルフ場を夢ある場所にしていきたい」。目指すはゴルフ界の星野リゾートだと話している。



ワールドカップ開催が決まって以降、メディアの取材が増えているという